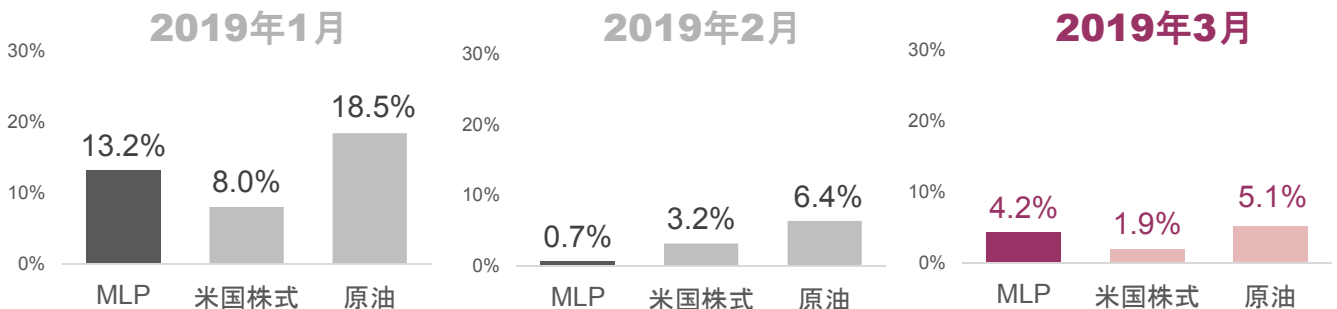


■ 当月のS&P MLP 指数の動き

3月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+4.2%と3ヵ月連続で上昇しました。

金融市場では、米中通商協議の進展期待、当局による中国景気下支え期待、FRB(米連邦準備制度理事会)が米金融政策についてより慎重な姿勢を示すとの期待が高まったことに伴い、投資家心理が改善する展開となりました。米長期金利が低下基調となる中、米国株式市場や原油価格の上昇などにも後押しされ、MLPは上昇基調となりました。ただし、ドイツと米国で、製造業PMI(購買担当者指数)が予想に反して低下したことを受け、世界的な景気減速懸念が広がったことなどから、下旬にかけてMLPは、株式市場とともに弱含む展開となりました。

■ 過去3ヵ月の主要指標の月次騰落率(米ドルベース、トータルリターン)



■ 主要指標の動き

MLP: S&P MLP 指数、米国株式: S&P 500 種指数、原油: WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	2019/3/31	2019/2/28	2018/12/31	2018/12/31	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
S&P MLP 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	4,806.30	4,610.55	4,047.51	4,047.51	4.2%	18.7%	18.7%
プライスリターン	1,476.25	1,416.13	1,268.20	1,268.20	4.2%	16.4%	16.4%
S&P 500種 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	5,664.46	5,556.49	4,984.22	4,984.22	1.9%	13.6%	13.6%
プライスリターン	2,834.40	2,784.49	2,506.85	2,506.85	1.8%	13.1%	13.1%
S&P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	881.52	863.30	757.14	757.14	2.1%	16.4%	16.4%
プライスリターン	489.45	479.94	424.07	424.07	2.0%	15.4%	15.4%
S&P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)							
トータルリターン	1,378.11	1,335.91	1,190.35	1,190.35	3.2%	15.8%	15.8%
プライスリターン	330.80	322.65	288.67	288.67	2.5%	14.6%	14.6%
米国ハイイールド債 (ICE BofAメリリンチ・米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))							
トータルリターン	1,324.91	1,312.05	1,233.61	1,233.61	1.0%	7.4%	7.4%
プライスリターン	75.84	75.51	71.75	71.75	0.4%	5.7%	5.7%
米国10年国債利回り	2.40%	2.71%	2.68%	2.68%	-0.31	-0.28	-0.28
原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり	60.14	57.22	45.41	45.41	5.1%	32.4%	32.4%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり	2.66	2.81	2.94	2.94	-5.3%	-9.5%	-9.5%
米ドル (対円)	110.86	111.39	109.69	109.69	-0.5%	1.1%	1.1%

※ 「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■当月の出来事いろいろ

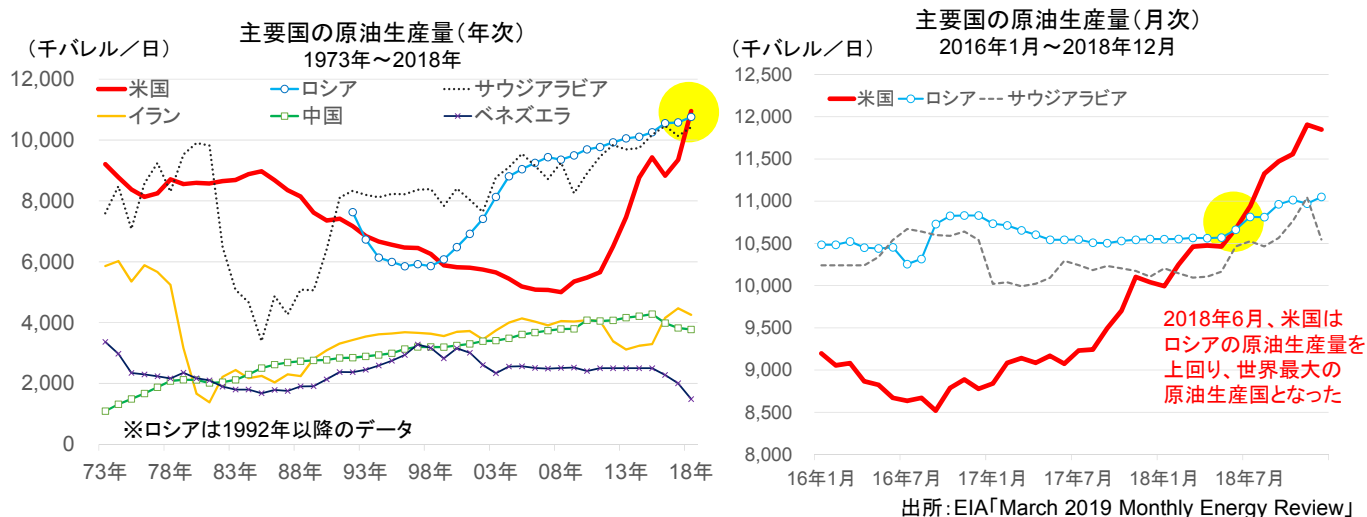
- 決算発表が一巡し、個別銘柄に関する材料が乏しい状況だったものの、S&P MLP 指数は、米国株式市場や原油価格の上昇などに後押しされ上昇基調となった。
- 10日、FRBのパウエル議長は、テレビインタビューで、政策金利はほぼ中立水準にあり、見直しを急ぐ必要を感じていないと述べ、2019年の利上げを休止する方針を改めて示した。これを好感し、週明け11日は、S&P500種指数(米ドルベース、トータルリターン)が前週末比+1.5%、S&P MLP 指数(同)が+1.6%と大きく上昇した。同日、サウジアラビアが3月に続いて4月も原油の積極的な減産を続けると報じられたことを受け、原油価格が反発したこともMLPの価格上昇の追い風となった。
- 18日、OPEC(石油輸出国機構)加盟国と非加盟国は、4月に開催予定だった臨時総会などを見送り、6月の定時総会時に2019年下半期の減産を協議すると発表した。ただし、サウジアラビアのエネルギー産業鉱物資源相が、在庫が増える限り、減産方針を変えないと述べたことを受け、減産延長観測が台頭し、原油価格が反発した。
- 20日、FRBは、政策金利の据え置きをFOMC(連邦公開市場委員会)で決定したほか、保有資産の縮小ペースを5月から鈍化させ、9月末で縮小を終了する方針を示した。また、年内の利上げ見通しは従来の2回からゼロとなった。長期金利が低下する中、為替市場では米ドルが売られ、円相場は1米ドル=110円台に上昇、米週間統計で原油などの在庫が減少したことを受け、原油価格が上昇した。WTI原油先物価格は、3月29日に1バレル=60米ドルの大台乗せで月末を迎えた。

■今後の注目点

- トランプ米大統領による原油上昇をけん制する発言などが、原油価格の今後の一段の上昇を抑制する要因になるとみられる。
- 一方、OPEC加盟・非加盟国による協調減産や米国によるベネズエラ制裁に伴う需給の引き締め観測が、原油価格の下支え要因となることが見込まれる。

■世界の主な原油生産国

EIA(米エネルギー情報局)が3月26日に発表したデータによると、2018年の米国の原油生産は前年比+17%と大幅に増加し、世界最大の原油生産国に返り咲きました。2018年6月にロシアの原油生産量を上回る水準になったことが、月次ベースのデータで確認できます。

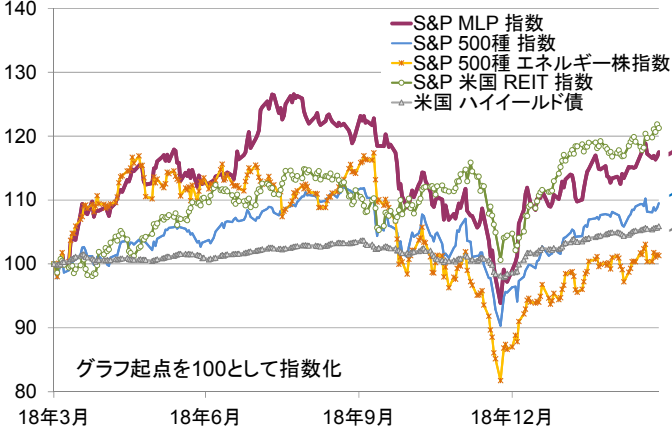


※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

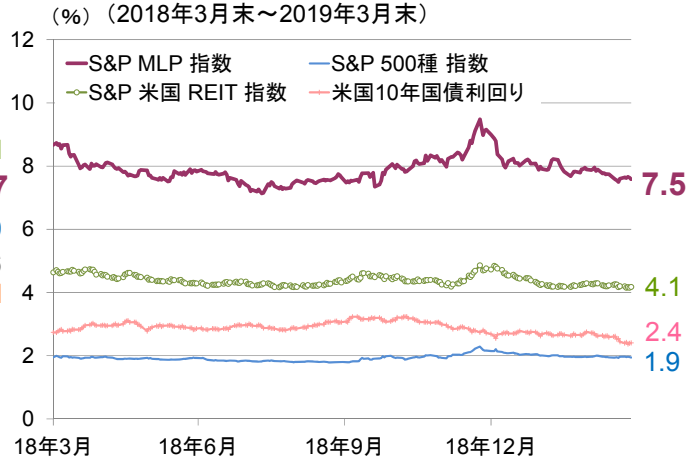
日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界のマーケット状況についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン) (2018年3月末～2019年3月末)



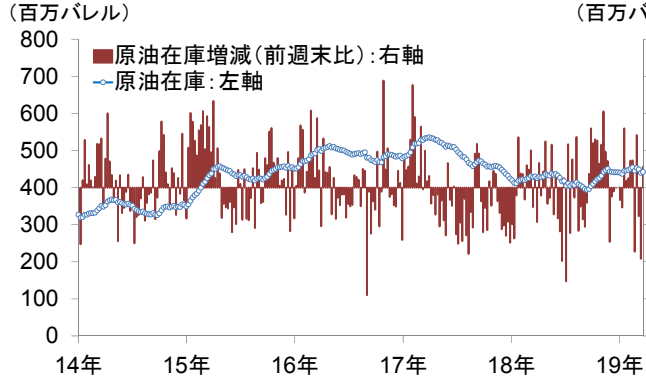
■各資産の利回り



※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
 ※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

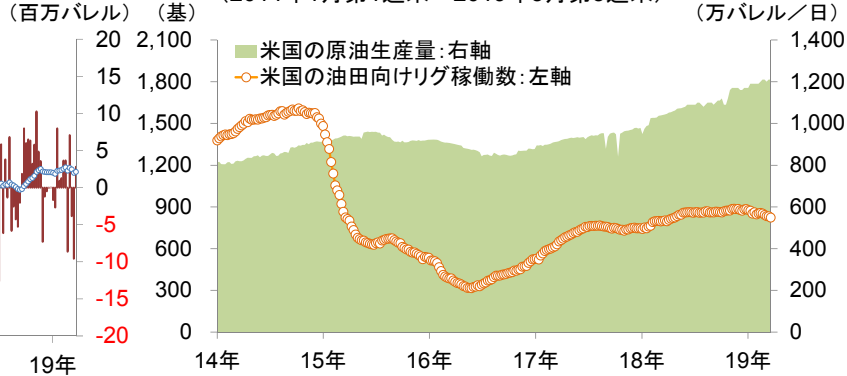
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2019年3月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2019年3月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給悪化懸念(改善期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給悪化懸念(改善期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2019年3月29日)



原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル高基調が強まる場合、割高感などにより、原油価格に押し下げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。